

愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(3)

——助産師の本学大学院への進学ニーズ——

岡田 由香¹, 高橋 弘子¹, 保田ひとみ¹, 神谷 摂子¹, 山下 恵¹, 宮本江利子¹, 近藤 幸枝⁴,
小松万喜子², 川田智恵子³

A Report on Educational Reform in Aichi Prefectural College of Nursing and Health (3)

—— Needs of Midwives to Study at the Graduate school of Nursing ——

Yuka Okada¹, Hiroko Takahashi¹, Hitomi Bōda¹, Setuko Kamiya¹, Megumi Yamasita¹,
Eriko Miyamoto¹, Yukie Kondo⁴, Makiko Komatu², Chieko Kawata³

キーワード：助産師，大学院進学ニーズ，教育改革

はじめに

少子社会のなか安全・快適な出産・育児環境を求め、助産師に対し高度な実践能力を求める消費者の声が高くなっている。本学は助産師課程を平成15年に開始したが、その後も教育改革、医療改革の速度は増している。全国的にみると専門職大学院制度の創設（平成15年4月1日施行）により、平成16年4月には助産研究科（専門職学位課程）、続いて平成17年4月には大学院の助産学専攻で修士論文コースとは別に助産学上級実践コースが新設された。これらはいずれも大学院で助産師国家試験受験資格の取得ができる助産師養成課程である。

また、平成17年2月、国会における議員質問への答弁書に基づき文部科学省から大学に対して助産学実習に関する調査が行われた。愛知県も無資格者の分娩介助をなくすための行政指導を行うなど、助産師の教育・業務について質を問う動きが強まっている。これらをふまえ、本学では大学院の修士課程に助産師の資格取得ができるコースの設置を専門看護師養成コースの設置とともに検討を進めている。

平成17年度博士課程小委員会では、本学大学院への看護職および学部生の進学に関する意見や、本学大学院修了者の雇用に関する意見を広く調査した。本稿ではこの調査のうち、助産師資格を有する看護職者の調査結果を

中心に分析を行い、本学大学院への助産師課程養成課程の設置、ならびに進学希望に関する意見から、今後の助産師養成のニーズに対応しうる看護系大学院のあり方を検討したので報告する。

I. 調査目的

愛知県内で働く助産師免許を有する看護職者の本学大学院への進学および大学院における助産師養成課程設置に関するニーズを明らかにする。

II. 調査方法

1. 調査用紙の配布対象

愛知県内における医療施設および助産施設の施設長および各病院の看護部門責任者または助産師責任者に調査の趣旨と方法を説明し、調査協力を依頼し同意が得られた61総合病院、92開業医院、25開業助産院で働く助産師を対象に調査用紙を配布した。

2. 調査期間

平成17年6月中旬から7月下旬

¹愛知県立看護大学 母性看護学・助産学, ²愛知県立看護大学 基礎看護学, ³愛知県立看護大学 学長, ⁴元愛知県立看護大学

3. 調査方法

1) 手続き

無記名自記式質問紙と調査協力依頼書を、対象に直接または施設を通して配布し、同意が得られた者から質問紙を留置または郵送により回収した。

2) 調査内容

以下(1)~(3)に示す内容について質問した。

- (1) 対象の属性：年齢、学歴、勤務場所、職位、大学院入学資格審査制度の認知度など
- (2) 本学大学院への進学に関するニーズ：
現在の修士課程への進学希望、専門看護師（以下、CNS）および助産師養成コース新設後の進学希望、博士課程新設後の進学希望、大学院進学時の仕事の継続、進学決定に際しての問題など
- (3) 大学院での助産師養成コースおよびCNS・認定看護管理者コース設置への意見など
質問の形式は(1)、(2)が主に多肢選択式、(3)が自由記述式で回答を求めた。

また、対象者には修士課程新設コース（CNSコース、助産師養成コース、認定看護管理者コースで、助産師養成コースは、修士課程で助産師国家試験受験資格取得が可能なコース）についての説明を行った上で調査した。

4. 倫理的配慮

対象に対しては、調査目的と方法、調査協力は自由意志に基づくこと、調査に協力しないことによる不利益はないこと、調査は無記名で個人が特定されることはないこと、データは調査目的以外に使用しないこと、調査結果の公表時には個人や施設が特定されないこと、質問紙の提出をもって同意の確認とすることを文書で説明した。

5. 有効回答数と分析対象の区分

質問紙を直接助産師へ配布した数は910人で、その内405人の回答を得た（有効回答率44.5%）。そして、病院の看護職7184人へ配布し回収できた5243人の内、助産師免許をもつ看護職198人からの回答をあわせ、本調査の分析対象を603人とした。

6. 集計および分析方法

質問項目ごとに結果を単純集計し、傾向を分析した。自由記述の回答については、重要と思われる語句を抽出し、項目を作成、分類化した。そして、その項目に該当

する回答頻度を量的に示す内容分析を行った。

III. 結果

1. 対象の背景

調査に回答が得られた対象の年齢と学歴、大学院入学資格審査制度（専修学校・各種学校卒業者に適用）の認知度を表1に示した。

年齢の平均は 37.2 ± 10.8 歳で、20~40歳代に分散していた。特徴的なことは60歳以上の助産師が21人と他の看護職者と比べて多く、幅広い年齢層からの結果となった。

学歴は、専修学校・各種学校が329人（54.5%）と半数を占め、短期大学155人（25.7%）、大学98人（16.3%）、修士課程8人（1.3%）であった。

勤務場所は病院198人（32.8%）、クリニック122人（20.2%）、助産院33人（5.5%）、その他244人（40.5%）と勤務場所の大きな偏りはみられなかった。

現在の職位は管理職にある助産師（主任・係長・師長・部長・院長等）が105人（17.3%）で、スタッフである助産師が489人（81.1%）と8割を占めていた。

表1 愛知県内で働く助産師の背景

		人(%)
項目		n=603
年齢	平均年齢	37.2±10.8
	20歳代	177 (29.4)
	30歳代	195 (32.3)
	40歳代	148 (24.5)
	50歳代	55 (9.1)
	60歳以上	21 (3.5)
	無回答	7 (1.2)
	学歴	専修・各種学校
短期大学		155 (25.7)
大学		98 (16.3)
修士課程		8 (1.3)
博士課程		0
無回答・他		13 (2.2)
大学院入学資格審査の認知		よく知っている
	知っているが条件は知らない	292 (48.4)
	知らない	222 (36.8)
	無回答	6 (1.0)

大学院入学資格審査制度の認知度について、よく知っている者は83人(13.8%)と少なく、知っているが条件は知らない者292人(48.4%)、知らない者222人(36.8%)で、大学院入学の門戸を広げる資格審査の制度は十分に知られていないことが明らかになった。

2. 本学大学院への進学に関するニーズ

1) 現在の本学大学院(修士課程)への進学希望

現在の本学大学院(修士課程)への進学希望は「進学したい」28人、「できれば進学したい」202人をあわせると、230人(38.1%)が進学を希望していた。

2) 修士課程に新設コースを設置した場合の進学希望

本学修士課程にCNSコース、助産師養成コース、認定看護管理者コースを新設した場合の進学希望を表2に示した。「進学したい」32人、「できれば進学したい」224人をあわせると、256人(42.5%)が進学を希望していた。

CNSの希望領域(複数回答)をみると、助産師の専門領域である母性看護が最も多く225人、次いで、小児看護93人、がん看護35人、地域看護31人の順であった。

また、助産師免許を有する助産師が助産師養成コースを希望する者も34人(13.3%)みられた。

新設コースを設置した場合の大学院の進学希望を年齢別にみると(表3)、「進学したい」「できれば進学したい」者をあわせた進学希望が半数を占めたのは30歳代(52.3%)であった。

表2 修士課程の新設コースを設置した場合の進学希望

項目		人(%)	
進学を希望する		256 (42.5)	
内訳	進学したい	32	
	できれば進学したい	224	
希望領域 (複数回答)	CNS コース	がん看護	35
		老人看護	14
		精神看護	15
		地域看護	31
		在宅看護	20
		小児看護	93
		母性看護	225
		成人看護慢性	1
		クリティカルケア看護	8
	助産師養成コース		34
認定看護管理者		41	

3) 博士課程を新設した場合の進学希望

本学に博士課程を新設した場合の進学希望は「進学したい」16人、「できれば進学したい」69人、「分野により進学したい」144人をあわせると、229人(38.0%)が進学を希望していた。

3. 大学院に進学した場合の仕事の継続希望について

1) 大学院に進学した場合に仕事を継続するか否か

大学院に進学した場合に仕事を継続するか否かについて、「仕事を継続する」と回答した者は154人(25.5%)で、「辞職する」と回答した者70人(11.6%)を上回り、仕事の継続をしながら進学を希望する助産師のニーズがうかがえた。

2) 仕事を継続する場合の希望

「仕事を継続する」と回答した154人に、継続の方法を質問した結果、「仕事の調整が可能なら仕事を継続する」と回答した者が114人(継続すると回答した者の74.0%)と多かった。

3) 仕事を辞職する理由

「仕事を辞職する」と回答した70人に、辞職の理由を質問した結果、最も多かったのは勤務形態や就業状況から継続は難しいとする者41人(辞職すると回答した者の58.6%)であり、学業に専念したいという理由から辞職を考える者も26人(辞職すると回答した者の37.1%)みられた。

4. 大学院進学の意味決定時の問題と大学への要望

愛知県内で働く助産師が大学院進学の意味決定をする際に問題となる内容と大学への要望を表4に示した。

大学院進学の意味決定時の問題について343件の自由記載が得られ、最も多かったのは「経済的問題」100件で

表3 年齢別 新設コース設置した場合の大学院の進学希望

年齢	進学希望		
	進学したい	できれば進学したい	進学を希望しない
20歳代	12 (6.8)	72 (40.7)	85 (48.0)
30歳代	14 (7.2)	88 (45.1)	68 (34.9)
40歳代	3 (2.0)	48 (32.4)	78 (52.7)
50歳代	3 (5.5)	11 (20.0)	36 (65.4)
60歳以上	0	1 (4.8)	13 (61.9)

表4 大学院進学の意味決定時の問題と大学への要望

項目	件数	主な記載内容	具体例の一部
意思決定時の問題	343	経済的問題 (100) 家庭との両立 (61) 仕事との両立 (56) 教育課程の内容・制度 (34) 自分自身の問題・能力 (33) 時間の確保 (22) 交通の利便性 (13) 入学試験 (9) 再就職の不安 (7) 教員の質 (5) その他 (3)	学費、生活費、収入がなくなること 家族の協力・理解、家事・育児 仕事の継続、職場の理解・協力 自分のやりたいことがあるか カリキュラムの内容の充実、実習の充実 働きながら学習可能なカリキュラムかどうか じっくり学べる余裕のあるプログラムかどうか 年齢、体力、学力、語学力、やる気 仕事と家事・育児と学習時間の調整可能か 通学のしやすさ、キャンパスの立地条件 試験科目、日程、入試の難易度 修了後の就職 分野に精通した教授、魅力ある教授の存在
大学への要望	80	仕事や家庭との両立可能な環境づくり (32) 教育内容の充実 (24) 経済的支援制度の整備 (11) 情報提供 (7) 入学試験・試験の検討 (6)	通信課程、夜間・土日祭日開講、集中講義、サテライトキャンパス、託児所・保育所の設置 魅力ある内容、社会的に認められる資格取得、臨床で活かせるものを学びたい、選択科目の充実、看護の本質・患者の心が理解できる人の養成 看護を学問としてとらえる理論的な力をつけてほしい 再教育の場を与えてほしい、他大学との協力、国際的なネットワーク 奨学金制度、授業料減額 カリキュラム内容を明瞭かつ詳細に提示してほしい 大学院について詳しい情報を知りたい 教員の研究内容を提示してほしい 社会人が入学しやすいもの

表5 CNS・認定看護管理者コース設置に関する意見

項目	件数	主な記載内容
設置に賛成する意見	84	賛成・是非設置して欲しい 愛知県にできることはいいこと 質向上・専門性を高めるために必要 学びたい
教育内容に関する意見	23	カウンセリング等メンタルケアについての内容が盛り込まれるといい 各種CNS分野を増やして欲しい 経営的なセンスを磨くためには、期間を長くすることが必要と思う
設置方法に関する意見	16	仕事や育児と両立できる工夫をしてほしい 二部制・通信などのコースがあるといい
情報提供に関する意見	14	制度がよくわからない 情報量が少なすぎる
否定的意見	6	必要とする理由がわからない
入試に関する意見	5	臨床経験を重視して欲しい 社会人入試があれば受験したい
修了後について	4	卒後、認定資格を活かす職場に就職できるか疑問がある

表6 助産師養成コース設置に関する意見

項目	件数	具体例の一部
設置に賛成する意見	83	<p>設置には賛成である</p> <p>独自の養成コースの必要性は高い</p> <p>助産師は修士で養成してほしい</p> <p>助産師は(看護師、保健師とは別に)単独で学ぶ方がよい</p> <p>大学4年に組み込むのは厳しいので、養成コースでゆとりをもって学ぶべき</p> <p>助産師は1年間の教育では不十分なので</p> <p>2年以上かけてしっかり学ぶ時間を長くした方がよい</p> <p>助産師不足のため資格取得できる場を多くしてほしい</p> <p>社会人入試に対する門戸が広くなりいいことだと思う</p> <p>これから助産師を目指す看護師から見ると魅力的で心強いコース</p>
教育内容に関する希望	58	<p>助産実践もしっかりできるようにしてほしい</p> <p>将来開業できるような教育内容にしてほしい</p> <p>助産師の仕事の幅が広がる内容にしてほしい</p> <p>十分な実践が行えるカリキュラムにしてほしい</p> <p>実習期間はどのくらいか、じっくりとってほしい</p> <p>分娩が少ないため、多くの経験ができる実習場所の検討を行い、 教育環境を充実してほしい</p> <p>助産師の仕事の展望について伝えられるコースにしてほしい</p> <p>臨床や地域で主導権を発揮できるような助産師育成プログラムを設置してほしい</p> <p>母性のエキスパートの養成を望む</p> <p>助産師養成コースと CNS の母性看護コースを統一してほしい</p> <p>助産師独自の活動(例えば乳房専門)ができるようなプログラムがあるとよい</p> <p>助産師は自立して業務する専門性が高いので、 常に新しい知見や情報をクリティックできる能力を身につけてほしい</p> <p>助産の理論や助産学の学問体系を立ち上げられる人材を育ててほしい</p> <p>世界レベルに応じた教育内容を提供してほしい</p> <p>助産師としての適性、感性がある人を育ててほしい</p> <p>専門学校出身の看護師が入学できるようにしてほしい</p>
否定的意見	14	<p>助産師学校、大学4年で専攻すればよいと思う</p> <p>修士課程で養成する程狭き門までしなくてよい</p> <p>わざわざ大学院に行って免許を取りたいとは思わない</p> <p>少子化の現状を考えるとニーズに対応しているのか疑問</p> <p>設置の必要性はない 興味がわからない</p>
制度の意義がよくわからない	14	<p>必要とする理由やメリットがわからない</p> <p>専門学校との違いがわからない</p> <p>修士課程で助産の専門性・知識・技術が身に付くのかかわからない</p> <p>何を行うのかよくわからない</p>
その他	3	<p>もう少し幅広い助産師育成の場があると良い</p>

あった。次いで、「家庭との両立」61件、「仕事との両立」56件、「教育課程の内容・制度」34件、「自分自身の問題・能力(年齢や学力など)」33件の順であげられた。

大学への要望としては80件の自由記載が得られ、「仕事や家庭との両立可能な環境づくり」32件、「教育内容の充実」24件、「経済的支援制度の整備」11件などが記載されていた。

5. 各コース・課程設置に関する意見

1) CNS・認定看護管理者コース設置に関する意見

CNS・認定看護管理者コース設置に関する意見を表5に示した。記載は152件あり、設置に賛成する意見が84件と最も多かったが、否定的意見も6件みられた。

2) 助産師養成コース設置に関する意見

助産師養成コース設置に関する意見を表6に示した。記載は172件あり、「独自の養成コースの必要性は高い」「助産師は修士で養成してほしい」「大学4年に組み込

表7 博士課程設置に関する意見

項目	件数	主な記載内容
設置に賛成する意見	57	良いことだと思う 看護の質向上には必要 看護職の地位の発展・向上のうえでも必要
わからない	19	よくわからない 修士課程との違いがわからない
教育について	13	修士で助産師養成であるならば 博士課程のカリキュラムを十分検討する 女性の一生に関わる職業であるため、 多方面の勉強をしてほしい
否定的意見・興味がない	8	今の自分には不要 何のために必要か理解しがたい 底辺（准看護師）の引き上げが重要

むのは厳しいので養成コースでゆとりをもって学ぶべき」「これから助産師を目指す看護師から見ると魅力的で心強いコース」など設置に賛成する意見が83件みられた。一方、「わざわざ大学院に行って免許を取りたいとは思わない」「助産師学校や大学4年の専攻でよい」「少子化の現状を考えるとニーズに対応しているのか疑問」などの否定的な意見も少数であるが14件あった。

また、「助産師としての実践もしっかりできるようにしてほしい」「将来開業できるような教育内容にしてほしい」「助産師の仕事の展望について伝えられるコースにしてほしい」「臨床や地域で主導権を発揮できるような助産師育成プログラムを設置してほしい」「助産師独自の活動ができるようなプログラムがあるとよい」など教育内容に関する希望の意見が58件みられた。

3) 博士課程設置に関する意見

博士課程設置に関する意見を表7に示した。記載は97件あり、設置に賛成する意見が57件と半数以上みられた。また、「修士で助産師養成であるならば、博士課程のカリキュラムを十分検討してほしい」「女性の一生に関わる職業であるため、多方面の勉強をしてほしい」など教育内容に関する希望の意見が13件みられた。

一方、「何のために必要か理解しがたい」「底辺である准看護師の引き上げが重要」などの否定的な意見も8件みられた。

IV. 考察

1. 本学大学院への進学希望状況

愛知県内で働く助産師603人の内、現在の本学大学院（修士課程）へは230人（38.1%）が進学を希望しており、進学ニーズは決して低くないことがうかがえた。また、本学にCNSコース、助産師養成コース、認定看護管理者コースを新設した場合の進学希望者は256人（42.5%）で、CNSコースの中でも助産師の専門領域である母性看護領域を希望する者が225人と多かった。また、本学に博士課程を新設した場合の進学希望者は229人（38.0%）で、現在の修士課程と同程度の希望数であった。これらのことから愛知県内で働く助産師は、専門職として助産師の資格を持っているにもかかわらず、専門的な学びをさらに深め、高度の専門能力を強化したいという意欲が高いことがうかがえた。

2. 愛知県内で働く助産師の大学院進学と仕事の継続について

愛知県内で働く助産師は大学院に進学しても仕事は継続したいと考えているが、継続するには仕事の調整が必要であり、現状での継続は勤務形態や就業状況から難しいと考えている者が多かった。さらに、大学院進学の意味決定において問題になることとして経済的問題をあげ

る人が最も多く、仕事の継続を望む背景には経済的問題が潜んでいることが推測された。また、家庭との両立も意思決定において問題になると答えた者が多かった。これは、新設コース設置の場合の大学院進学希望を年齢別でみると30歳代が最も希望が多かったことから、大学院進学を考える時期が結婚・出産・育児の時期と重なるために困難になっていることが推察された。このことから大学院進学を支援するためには、大学院への要望の意見としてもあがっているように仕事や家庭との両立が可能な教育体制や教育環境の充実化・柔軟性が必要であることを再確認した。

3. 本学大学院助産師養成課程の今後の課題

本調査で助産師養成課程設置について、すでに助産師の免許を持っている立場から貴重な意見を得ることができた。設置に賛成する意見の方が否定的な意見よりも多くみられた。本調査の分析対象である助産師の8割は1年間（専修・各種学校および短期大学卒業）の助産師養成課程で学んでおり、その対象者が助産師は修士課程で独自に2年かけてしっかり学ぶ必要性をあげており、修士課程における助産師養成の必要性が高いことがうかがえた。看護基礎教育の後、さらに専門職としての助産師教育を修士課程の2年間で行うことは助産師の養成数を確保するとともに、修士の学位をもった高度な実践能力を備えた助産師の養成が可能と考える。

また、教育内容に関する意見から、助産師独自の活動ができるよう幅広い助産実践がしっかりでき、臨床や地域で主導権を発揮できる育成プログラムの要望や助産師としての仕事の展望が伝えられるコースを望む意見がみられ、修士課程において独自の実践能力を強化し、リーダーシップ・マネジメント・コーディネーター能力を培う教育の必要性がうかがえた。また、母性のエキスパートの養成、理論や助産の学問体系をうち立てることのできる人材の養成を望む意見もあり、実践だけでなく研究活動も自立して行うことができ、根拠に基づいた助産学を常に追求する姿勢を学ぶことができるカリキュラムの構築や教育環境の充実の必要性がうかがえた。

育児支援能力が低下している少子社会において、安全・快適な出産への支援とともに地域で生活する母子への継続的支援ができる助産師が今後必要と考える。すなわち、妊娠・出産期の女性の診断とケア、新生児・乳幼児を育てる母親やその家族への継続的な育児支援、女性のライフステージ全般の性・生殖に関する健康（リプロ

ダクティブ・ヘルス/ライツ）に関わるリーダーシップ能力、医療施設と助産施設の連携によるマネジメント、コーディネート能力、女性のエンパワーメントを重視した助産ケアの発想など幅広い活動が助産師には必要とされる。このことは、本調査の助産師養成コースの設置に関する意見からも助産師の免許を持っている助産師が助産師養成のニーズをあげていた。このニーズに対応するためにも、修士課程における助産師養成課程を今後本学も導入することが必要であろう。

まとめ

愛知県内で働く助産師を対象に、愛知県立看護大学大学院への進学および大学院における助産師養成課程設置に関するニーズを調査した結果、大学院への進学を希望しながらも、家庭や仕事の調整、経済的問題などで進学に躊躇していることがうかがえた。今日の急速な社会や医療状況の変化の中で、助産師の質の保証に 대응するためには、看護基礎教育をふまえ、特殊専門領域としての大学院修士課程での教育の必要性が示唆された。

おわりに

調査にあたりご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

本稿は、助産師の調査を実施および分析した教員がまとめたものである。

文 献

- 1) 我部山キヨ子：助産学教育における技術教育の現状と将来的展望，助産雑誌，58(3)，197～202，2004.
- 2) 草間朋子 栗谷典子 宮崎文子：助産師教育の大学院化を期待する，助産雑誌，57(1)，15～20，2003.
- 3) 愛知県立看護大学自己評価委員会：愛知県立看護大学自己点検評価報告書，124～125，2000.
- 4) 全国助産師教育協議会 教育制度委員会 修士課程検討グループ：助産婦教育のための大学院修士課程構想，2002.